

第 1 回小牧市まちづくり推進計画審議会 会議録

日 時	令和 8 年 8 月 5 日（水）18 時 30 分～20 時 00 分	
場 所	小牧市役所本庁舎 6 階 601 会議室	
出 席 者	【委員】（名簿順） 伊藤 博美 梶山女学園大学教育学部こども発達学科教授 浦田 真由 名古屋大学大学院情報学研究科教授 大塚 俊幸 中部大学人文学部歴史地理学科教授 夏目 有紀枝 名古屋経済大学人間生活科学部管理栄養学科教授 梅澤 侑未 （一社）小牧青年会議所理事長 大谷 修 小牧警察署生活安全課長 鈴木 義久 小牧商工会議所副会頭 長江 章 （社福）小牧市社会福祉協議会相談支援課長 丹羽 祐二 小牧市区長会副会長 山下 智明 小牧市小中学校 PTA 連絡協議会 井戸 隆明 一般公募者 佐藤 寛 一般公募者 長谷川 香織 一般公募者 【諮問者】 天野 正基 市長 【事務局】 駒瀬 勝利 市長公室長 舟橋 知生 市長公室次長 宇野 嘉高 市長公室次長 古澤 健一 総務部次長 伊藤 加代子 地域活性化営業部次長 堀田 正二 市民生活部次長 高木 晶子 健康生きがい支え合い推進部次長 山本 格史 福祉部次長 野田 弘 こども未来部次長 矢澤 浩司 建設部次長 川島 充裕 都市政策部次長 長坂 裕 上下水道部次長 佐久間 修 市民病院事務局次長 長谷川 隆司 教育委員会事務局次長 渡邊 晃 消防署長 松浦 一将 市長公室 秘書政策課 課長	

	上原 みよ子 市長公室 秘書政策課 市政戦略係長
欠席者	片山 精 名古屋工業大学産学官金連携機構特任准教授 平野 一成 一般公募者
傍聴者	1名
配布資料	資料1 小牧市まちづくり推進計画審議会委員名簿 資料2 小牧市まちづくり推進計画第3次基本計画策定に係る基本方針 資料3 小牧市の基礎データ 資料4 小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画進捗状況報告書 資料5 まちづくり（市民アンケート）調査結果（速報） 資料6 小牧市まちづくり推進計画第3次基本計画「第1章 計画の概要（案）」 参考1 小牧市自治基本条例 参考2 小牧市まちづくり推進計画審議会条例 参考3 小牧市まちづくり推進計画審議会日程

【内容】

1.開会

2.委員任命

3.市長あいさつ

- ・ 小牧市まちづくり推進計画第3次基本計画は、私自身の市政運営における考え方を反映する重要な計画であり、今後の小牧市のまちづくりの基本となるものである。
- ・ 私が市長になる際に強く意識したことは、旧桃花台線のようなことを二度と繰り返さないということである。そのため、計画策定に当たっては、将来見通しの難しさを踏まえ、同じ失敗を繰り返さないよう、現在の社会情勢を的確に捉える必要がある。今後は人口減少や少子高齢化が進む中で、これまでと同じように行政サービスを維持していくことが難しくなる。
- ・ その上で、市民一人ひとりが小牧市を「わたしのまち」として捉え、自分ごととしてまちづくりに関わっていくことが重要であり、市役所も引き続き努力しながら、市民とともに持続可能なまちづくりを進めていきたい。
- ・ 第3次基本計画では、前市政から掲げられてきた3つの都市ヴィジョンを継承しながら、まちのコンセプトである「ずっと『わたしのまち』こまき」の実現を目指す。そして、人口減少・少子高齢化、ウェルビーイング、選ばれるまち、DXの推進、地球温暖化対策の5つの視点を重視している。特に、物質的な豊かさだけでなく、市民一人ひとりの主観的な幸福や暮らしの実感を高める行政サービスを進めていくこと、また、地域間競争の中で選ばれるまちとなるため、産業誘致や職住近接、デジタル技術の活用、気候変動への対応に取り組む必要がある。
- ・ 審議会委員の知見を結集し、活発な議論を通じて、より良い計画としていきたいため、ご協力いただきたい。

4.会長・会長職務代理選出

- ・ 浦田委員より伊藤委員が会長に推薦され、出席委員全員の同意を得て伊藤委員が会長に選出された。
- ・ 伊藤委員より大塚委員が会長職務代理に指名され、出席委員全員の同意を得て大塚委員が会長職務代理に選出された。

5. 諮問

6. 議事

(1) 策定の経緯

(2) 小牧市まちづくり推進計画第3次基本計画「第1章 計画の概要（案）」

【佐藤委員】

- ・ 全体的に横文字や専門用語が多く見られるため、例えば中学生でも理解できるような分かりやすい表現を検討してほしい。また、解釈のぶれが生じにくい表現を用いることが重要である。

【松浦秘書政策課長】

- ・ 専門用語については、現計画でも巻末に用語解説を設けており、新計画でも用語解説を設ける予定であるが、市民に分かりやすい計画とするため、可能な限り平易な表現への置き換えを検討する。

【大塚委員】

- ・ 資料6の3ページの国や地域を取り巻く課題をまとめた「2 社会経済環境の変化や課題」と、10ページの「4（2）計画推進における共通視点」との関係について、「2 社会経済環境の変化や課題」に挙げられた、産業や災害、インフラ・公共施設の老朽化といった課題が、「4（2）計画推進における共通視点」でどのように位置付けられているのか、また、市としてどのように計画に反映する予定なのか。

【松浦秘書政策課長】

- ・ 「2 社会経済環境の変化や課題」は国や地域全体の時代潮流を踏まえた課題をまとめたものであり、「4（2）計画推進における共通視点」は、小牧市が計画策定に当たって重視する視点を整理したものである。また、災害などの「4（2）計画推進における共通視点」に記載のない事項については、分野別計画の中で位置付けている。審議会の意見を参考に、追加すべき視点があれば盛り込み、最終的な内容をまとめたい。

【大塚委員】

- ・ 計画内に様々な視点が示される中で、それぞれがどのように関連しているのかが分かりにくいため、市民に分かりやすい計画とするためにも整理や工夫をお願いしたい。

【梅澤委員】

- ・ 個々の内容については理解できるものの、全体としては、市民にとって内容がやや難しく思

われる。今回の計画が市民により分かりやすい構成や表現になるとよい。

【鈴木委員】

- ・ 小牧市は全国的に見ても住環境や産業、財政面などに強みを持つ魅力的なまちであり、その良さを前提として今後のまちづくりを考えることができるとうい。
- ・ 一方で、人口減少という大きな社会の変化を踏まえ、“縮むことへのソフトランディング”を考えていく必要がある。このためには、これまでのように量的な成長や拡大を追求するだけでなく、一度立ち止まって、今後一体何をを目指すのか考え直す価値観の転換が重要だと思う。

【長江委員】

- ・ 福祉分野においても「自分がどのように生きていきたいか」を支援の中で重視する考え方が広がっており、それぞれが望む生き方や暮らし方に着目する視点は重要である。
- ・ 資料6の11ページの施策体系にある、「政策の柱」における「幼児教育と保育」と「学校教育」について、特に障がいのあるこどもの支援の観点から、幼児期から学齢期への移行が円滑に行われるよう、分野間の連携やつながりがあると望ましい。

【伊藤会長】

- ・ 小牧市は幼保小連携のモデル地区として先進的な取組を進めており、第一幼稚園のこども園化に伴い新たな試みが進められている。政策の柱における「こどもたちの今と未来」と「教育と文化」の連携は重要であり、幼児期から学齢期までを切れ目なくつなぐ視点に期待している。

【長谷川委員】

- ・ 自身の経験を通じて、自分らしい生き方や暮らし方について改めて考えるようになった。仕事をしていない人も含め、多様な立場の人が地域や社会に参画できることが大切である。
- ・ 男女は基本的に平等であるべきだが、女性やこどもに負担が偏っている現状があるため、これまで十分に目が向けられてこなかった課題にも配慮した施策の推進に期待している。

【山下委員】

- ・ 計画全体については十分に検討されていると感じるが、すべての分野で完璧を目指すことは難しいと思う。小牧市は「子育てしやすいまち」として評価されており、この強みを生かしながら、未来のこどもたちのために何を優先して取り組むべきかを考えていくことが重要である。

【大谷委員】

- ・ 小牧駅周辺において、青少年の深夜のたむろや様々な迷惑行為が見られ、市民生活に影響を及ぼしている。夏休み期間中には警察による夜間パトロールを実施し、対応を行った。こうしたことから、小牧駅周辺は人が集う場としての役割を持つ一方、利用者には法令やルール

を守り、他人に迷惑をかけない行動が求められる。人口減少が進む中、治安の良さはまちの魅力や定住促進にもつながる重要な要素であり、犯罪のない安全・安心なまちづくりに小牧警察署としても引き続き取り組んでいきたい。

【丹羽委員】

- ・ 小牧市はこれまで製造業を中心に発展してきた一方、近年は流通倉庫の増加など産業構造が大きく変化しており、今後の産業基盤の維持や発展について注視していく必要がある。
- ・ 若い世代が定住し続けられる魅力あるまちづくりや、進行する高齢化への対応、防災・福祉施策の充実が重要である。
- ・ DX や AI などの技術革新が進む中、社会や産業の変化を的確に捉えながら、将来にわたって持続可能な地域経済と安全・安心な暮らしを支えるまちづくりを進めてほしい。
- ・ 災害などの不測の事態が発生しても、地域として機能を維持できる、平和で安全な小牧市であってほしい。

【井戸委員】

- ・ 自身の経験からも生成 AI の活用により業務の効率が大きく向上していると感じている。特に画像認識機能の進展等により、シニア世代にとっても DX を活用しやすい環境が整いつつある。まちづくりにおいても高齢者の DX 推進や支援の充実が重要である。
- ・ 計画には多くの課題や視点が示されているものの、市として特に重点的に取り組む施策や目玉となる取組が見えてこないため、小牧市として何を強みとして打ち出し、優先的に推進していくのかを分かりやすく示したほうがよい。

【松浦秘書政策課長】

- ・ 資料 6 の 10 ページの「4 計画の体系と政策横断プロジェクト」のとおり、まちのコンセプトである「ずっと『わたしのまち』こまき」の実現に向け、3つの都市ヴィジョンを引き続き重要な柱として位置付けている。また、各都市ヴィジョンを具体化するため、重点プロジェクトを設定し、今後の分野別計画の施策が関係する重点プロジェクトに位置づけ、整理していく予定である。
- ・ 人口減少や人手不足を前提とした「スマートシュリンク（賢く縮む）」の考え方を取り入れ、人口減少社会の中で何を残し、何を見直すかを検討しながら持続可能なまちづくりを進めていく。また、重点プロジェクト 1 のこどもや若者に関する施策については、分野横断的な連携を図りながら、夢や希望を持てるまちづくりにつなげていきたい。

【浦田委員】

- ・ 資料 6 の 8 ページの「(5) 市民のウェルビーイング (Well-Being)」については、ウェルビーイングは概念が広く、住民ごとに価値観も異なることから、全国一律の視点ではなく、小牧市民にとってのウェルビーイングとは何かを見ていく必要がある。特に、子育て支援や若い女性が暮らしやすい環境づくり等がその要素になりうるのではないかな。

- ・ 資料 6 の 10 ページのまちのコンセプトの「ずっと『わたしのまち』こまき」は温かみのある表現である一方、他自治体と比較するとやや印象が弱く感じられる。計画の内容を通じて、子育て施策などの小牧らしい強みや特色をより明確に打ち出せばよい。
- ・ 製造業をはじめとした地域産業においては、DX や AI を活用して働き方や生産性の向上を図ることが重要であり、市内企業の先進事例を横展開するなど、ものづくり分野の DX 推進を支援していくことが望ましい。

【夏目委員】

- ・ 資料 6 の 6 ページの「⑧将来人口推計」について、外国人住民が増加している現状を踏まえ、日本人だけでなく外国籍の方にとっても暮らしやすく、「私のまち」と感じられる環境づくりが重要であり、健康づくりや災害対応を含め、多様性に配慮した計画としていくことが望ましい。
- ・ 資料 6 の 8 ページの「(5) 市民のウェルビーイング (Well-Being)」については、新たな計画に「心身ともに健康である」というウェルビーイングの視点が盛り込まれたことは評価したい。高齢者のフレイル対策など健康づくりの取組を今後さらに広げていくことが重要である。
- ・ 資料 6 の 10 ページのまちのコンセプトの「ずっと『わたしのまち』こまき」については、すべて平仮名で表され、こどもにも分かりやすく、親しみやすい表現であり、小牧らしい温かい雰囲気が出ている。

【大塚委員】

- ・ 時代によって重視される価値観は変化するため、この審議会では「小牧市民にとってのウェルビーイングとは何か」を踏まえることが重要である。また、その実現が「ずっと『わたしのまち』こまき」につながるものであり、今後の会議でも継続的に議論していくべきである。
- ・ 資料 6 の 5 ページの「地区別人口」で、桃花台地区を個別に取り上げている意図が分かるよう、補足説明や分析を加えたほうがよい。
- ・ 資料 6 の 11 ページの施策体系において、観光分野は「分野 10 資源の魅力発信と磨き上げ」に含まれると思うが、観光施策や地域資源の活用についてどのような考えで位置付けているのか、分野の名称も含め、その背景や意図を確認したい。

【駒瀬公室長】

- ・ 今回は、計画内容について、分かりにくいところのご意見を多くいただいた。お手元の現行計画の冊子は実務版として職員が計画書を見て業務に当たる視点で策定したものである。市民向けにはこれとは別に概要版も作成している。新しい計画では、職員の実務上必要な内容と市民から見た分かりやすさのバランスをとっていきたい。

7.閉会